山崎小学校 学校だより あい

岩出市立山崎小学校
令和６年７月３日
Ｎｏ．７
文責：柏木

やらされている感の勉強から、やっている感（主体的）の学びへ

睦月 如月 弥生
卯月 皐月 水無月
文月 葉月 長月
神無月 霜月 師走

7月のよく知られた異名として「文月（ふみづき）」があります。これは旧暦の7月、今の暦でおおよそ8月を表しています。

語源には色々な説がありますがその中の一つに、稲の穂が実る頃という意味の「穂含月（ほふみづき）」が転じて「文月」になったという説があります。さらには、むかし七夕の日に書物を干す行事があって、書物（文）をひらく（披く）という意味から、「文披月（ふみひろげづき）」と呼ばれるようになり、それが「文月」になったという説もあるようです。このように、名前の由来などを調べていくと、当時の風習や生活の様子などが垣間見られます。

私はよく学校だより（あい）で、季節のことや身近な出来事などについて書くことがあります。今回の月の和名については、学生時代に、6月は水無月、7月は文月と学びました。ここで、6月は「水無月」と、単に単語として覚えるのと、「あれ、6月は梅雨時で水がたくさんあるのに、なぜ水の無い月と書くのだろうか？」と考えるのとでは、大きく異なります。機械的に覚えると、ある一定期間が過ぎると記憶が薄れ、終いには忘れてしまいます。

それに対して、梅雨時で雨の降りやすい時期なのに、「水が無い」と表すのを不思議に感じたことからその語源を調べてみます。すると、水無月の「無」は、「の」にあたる連体助詞「な」であるため、「水の月」という意味になることが分かりました。今まで水の無かった田んぼに水を注ぎ入れる頃であることから、「水無月」や「水月（みなづき・すいげつ）」「水張月（みずはりづき）」と呼ばれるようになったそうです。この時期の雨は稲が実を結ぶために重要なものであるため、豊作を願う人々の思いがこの呼び名に表れている、とも言われています。

自らが「あれ」「どうしてだろう」と引っかかりを感じた時、つまり、興味・関心がみられたときが意欲となり、その学びの中で獲得した知識などはいつまでも覚えていたり、忘れてしまっていてもあるきっかけで記憶を呼び起こすことが多くあります。

勉強が大好きで仕方がないという人より、「イヤだな」、「面白くない」と感じる人の方が多いかと思います。

私自身を振り返ると、「やらされている感のある勉強」は、あまり楽しくないように感じてしまうことが多かったです。それに反し、「へー、そうなんだ」、「あっ、そうか」など、「次はどうなるんだろう？」という思いが出てきたときは、自ら机に向かっていたように思います。

「好きこそものの上手なれ」ということわざがあります。意味は、好きなことは熱心に行うから、自然に工夫し勉強するようになるので、非常に上達も早くなるということです。そういう意味でも、好きになるための意欲、つまり興味・関心をもって取り組めるようになることが大切です。

学校では、勉強の仕方を繰り返し繰り返し学んでいきます。宿題などは学校での学びを家庭で「振り返る学習（復習）」として主に出しています。それに対し、主体的に「もっと知りたい」など学習内容を自分で選択していくのが自主勉強です。自分で決めて学びをすすめることから、やっている感が高まってきます。それが、成功体験となって、色々な分野に興味・関心を拡げていくと学ぶことが楽しくなってきます。

その他本校では、考えを伝え合いながら、学びを広げ深める授業に取り組んでいます。そのためには、話したくなるような内容を提示して、他の人との対話から自分の考えを見つめ直したり、まとめたりするなかで、答えを導き出していく全員参加型の授業にも取り組んでいます。本校が大切にしている、「学び**あい**」や「高め**あい**」に繋がっています。

１学期もあと2週間あまりです。その後は夏休みに入ります。決められた宿題だけでなく、選択して課題に取り組むものもあります。有意義な時間の使い方が出来る学びの期間となればいいですね。

「**あい**」のある学校の風景

【引き渡し訓練】

【梅ジュース作り・4年】

【ミシンボランティア・6年】

【ストーリーテリング・1年】

【定例学校訪問】

【学校運営協議会】